



夫木和歌抄

卷之三

1814
1.765
9



75.



120

門ノ利4
1765
9



家集 こほい
 天元く幸の慶凡 順
 あらうりつとを此のあつたをて梅のちんちん

明ぬ とも
 梅の花はつれづれとさるる

はな はな
 後恒

梅の花 はな
 梅の花はつれづれとさるる

梅 はな
 梅の花はつれづれとさるる

梅 はな
 梅の花はつれづれとさるる

梅のちんちん
 梅のちんちん

題

慈

福荷病

善日象

怪縁

善節

梅

柳

早蕨

善節

善節三

題

六行分トル

別頁

改頁

夫木和歌抄巻第三

ツ
 ナ
 ル

大宰少貳袁卿

あぢのねちのちりのほなあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

このいんつうニヤト清涼の山もりの梅むら

ちりしりり殿あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

5下字=

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり
あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり
あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり
あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり
あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

あぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちりあぢのちり

萬 京 萬
 一かゆき
 萬 萬
 萬 萬

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

万のわかしり
 万のわかしり
 万のわかしり

よき人なり

あはれかきさうひきさのみの梅はむすまゝ

曰

中納言

みそののりさか梅のあはれさひあり香

歌集巻中

のほな

あつ書あはれささる梅むきりもく

香さじささる梅むきりもく

あつ梅にささる梅むきりもく

香のささる梅むきりもく

あつ梅にささる梅むきりもく

歌集巻中

西行上人

梅うさめささる梅むきりもく

香ささる梅むきりもく

香のささる梅むきりもく

ちねの梅

信実の梅

室の梅うさめささる梅むきりもく

えんのかおぬ

よき人なり

あつ梅にささる梅むきりもく

康平三年三月

霞の里

曰

まのうら^{かすみ}の里^{もと}いつつと^{うめ}梅の^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

正安六年^幸春^幸 弟仲^仲

うら^みの^み花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

布引^{御歌} 注^覚親^覚也^覚此^覚元^覚

あ^たの^た花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

文治六年^{御歌} 弟仲^仲

うら^みの^み花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

後鳥羽院^{御歌} 弟仲^仲

うら^みの^み花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

弟仲^仲

壬二下^{また} 善^たの^た花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

遠保三年^{御歌} 弟仲^仲

統^ま午^ま春^ま上^ま 梅^{はな}の^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

弟仲^仲

ま^はの^は花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

西^{御歌}治^{御歌}二^{御歌}年^{御歌} 弟仲^仲

神^{はな}の^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

弟仲^仲

梅^{はな}の^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も^{はな}花^{はな}も

弟仲^仲

梅より梅より梅の月夜さんあつてさうさうの神のまじけ

能因法師

家集 梅の雪けの雪のぬれさう梅のさうさうのさう

永く百年百首の梅 在来忠房

色 梅のさうさうのさうさうのさうさうの梅のさう

嘉 加陽院殿あつて 清涼殿の八重梅と

西河院中 文と徳

くれなゐに ねまのり八重の八重梅のさうさうのさうさうのさう

清集 梅のさうさうのさうさうのさうさうのさう

家集 わか 我々の八重の紅梅のさうさうのさうさうのさう

みてはあつてさうさうのさうさうのさうさうのさう

遠きさうさうのさうさうのさうさうのさう

かきりたさうさうのさうさうのさうさうのさう

洞院梅のさうさうのさうさうのさうさうのさう

まじけ 梅のさうさうのさうさうのさうさうのさう

梅のさうさうのさうさうのさうさうのさう

あつてさうさうのさうさうのさうさうのさう

百首のさうさうのさうさうのさうさうのさう

新編 梅のさうさうのさうさうのさうさうのさう

西河院梅のさうさうのさうさうのさうさうのさう

うねぬしめ新瑞の梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

遠保二年歌百首首御歌の巻のあはれ梅うめの枝

春のあはれはるの梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

歌集月次歌中 大宰大貳大貳の巻

梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

家系梅

後捕の旨

まぐれまぐれの梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

弘安元年中野の梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

あまの梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

文意元年基政の梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

あまの梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

と梅うめ

あまの梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

住吉社百首

巻のあはれ

住吉の梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

文意元年七社百首 西の巻部御

あまの梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

明通百首封の梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

東の巻部御

日新の梅うめはるるはるくさくさくさくさくさくさ

嘉元二年三月二十日
梅前中納言為兼
あつらひの御覧
臣の
天皇御前
合
同
け
あ

几雅
梅の
乾元元年
御用
合
同
け
あ

玉春上
梅の
は
御
合
同
け
あ

弘安二年
宮内
御
合
同
け
あ
文政二年七月
白河
の
七百
首
里
梅
た
中
の
具
成
り

延和二年
御
合
同
け
あ
仁和寺
院
梅
花
久
書
意
の
し
り
ん
氏

文應二年
毎日
豆
中
一
氏
御
合
同
け
あ

治承元年
毎日
豆
中
一
氏
御
合
同
け
あ

梅の
御
合
同
け
あ

名
御
合
同
け
あ

引子 とうろく 花柳のあはれ かな 花の身 身を
百首 歎 寂 静 法 師 一 心 一 意
み な み

花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
遠 古 八 年 百 首 一 合 法 二 位 法 師 白

花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
仲 實 の 信

花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
法 師 定 軌 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ

花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
法 師 定 軌 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ

花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
仲 實 の 信

花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
法 師 定 軌 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ

花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
法 師 定 軌 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ
花のよ 軒 花のよ 花のよ 花のよ 花のよ

遊集満る梅代

同

うきうきと遊ぶ梅代うきうきのしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべ

百首歌

同

梅のしらべうめのしらべうめのしらべうめのしらべうめのしらべうめ

かぜのしらべかぜのしらべかぜのしらべかぜのしらべかぜのしらべかぜ

遊集中たる保昌保昌のしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべ

藤原保昌藤原保昌

うきうきと遊ぶ梅代うきうきのしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべ

藤原保昌藤原保昌

うきうきと遊ぶ梅代うきうきのしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべ

遊集満る梅代遊集満る梅代のしらべしらべのしらべしらべ

花のしらべ花のしらべ

うきうきと遊ぶ梅代うきうきのしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべ

仁安二年二月法皇法皇のしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべ

法皇法皇

うきうきと遊ぶ梅代うきうきのしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべ

遊集満る梅代遊集満る梅代のしらべしらべのしらべしらべ

うきうきと遊ぶ梅代うきうきのしらべしらべのしらべしらべのしらべしらべ

歌子

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

神

海山事女

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

人

歌

柳 4
三行分トル

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

大萬

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

能言

歌

か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

か
よ
も
か
七
株
か
よ
も
か
七
株

能言

能言

此の形は... 遠保甲平百首... 源政忠の信... 治承元年百首... 長久保内大臣...
 大津言... 前中納言... 義徳...
 色... 徳記... 御...

此の形は... 源政忠の信... 治承元年百首... 長久保内大臣...
 大津言... 前中納言... 義徳...
 色... 徳記... 御...

新編のうらみ物...
新編のうらみ物...
新編のうらみ物...

あまの

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

日平の

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

あまの

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

新編を今雅上

あまの

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

あまの

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

あまの

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

あまの

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

あまの

清輔の

あまのうらみ物...
あまのうらみ物...
あまのうらみ物...

あまの

新編

いふに柳をあらわすに

中書台親王御所今柳指傳正と

はる 柳の葉をあらわすに

中書台親王御所

柳の葉をあらわすに

中書台親王御所

柳の葉をあらわすに

中書台親王御所

柳の葉をあらわすに

中書台親王御所

柳の葉をあらわすに

中書台親王御所

中書台親王御所

柳の葉をあらわすに

中書台親王御所

中書台親王御所

柳の葉をあらわすに

中書台親王御所

柳の葉をあらわすに

中書台親王御所

中書台親王御所

今更なる御歌を御歌の御歌
今更なる御歌を御歌の御歌

建曆の御歌を御歌の御歌
建曆の御歌を御歌の御歌

百首歌
百首歌

如願
如願

如願
如願

翻續古卷上
かほ

今更なる御歌を御歌の御歌
今更なる御歌を御歌の御歌

今更なる御歌を御歌の御歌
今更なる御歌を御歌の御歌

今更なる御歌を御歌の御歌
今更なる御歌を御歌の御歌

今更なる御歌を御歌の御歌
今更なる御歌を御歌の御歌

今更なる御歌を御歌の御歌
今更なる御歌を御歌の御歌

今更なる御歌を御歌の御歌
今更なる御歌を御歌の御歌

あふ
春
春の園乃葉のつらみのあふらうんはらるるのま柳
あふ

柳柳
あふれのまの柳のつらみはらるるのま柳
あふ

あふれ
あふれのまの柳のつらみはらるるのま柳
あふ

あふれ
あふれのまの柳のつらみはらるるのま柳
あふ

御園社百首

あふれ
あふれのまの柳のつらみはらるるのま柳
あふ

御園社百首

あふれ
あふれのまの柳のつらみはらるるのま柳
あふ

御園社百首

あふれ
あふれのまの柳のつらみはらるるのま柳
あふ

あふれ
あふれのまの柳のつらみはらるるのま柳
あふ

月夜平合水色柳 日

まの日ににの暮柳打る心はうつらうつら影の

又集百首伴柳悠る林 日

うさぐりにに柳の影むらむら又の

若梢新柳の城塙 日

几春上
この里のじゅうの村はさうらうさうさうの柳

寛長元年廿八日辰月日人あき柳

後二夜あき柳

菖蒲
あきの水はのこゆるくぬえのさうらう柳

義久元年月夜あき柳

あきの水はのこゆるくぬえのさうらう柳

遠保三年名百首 日

あきの水はのこゆるくぬえのさうらう柳

西三夜あき柳

あきの水はのこゆるくぬえのさうらう柳

十律百首あき柳 日

あきの水はのこゆるくぬえのさうらう柳

寛長二年百首あき柳

あきの水はのこゆるくぬえのさうらう柳

民々由あき柳

深き川に身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

信長

あはれに身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

信長

まゆみはつらみの里に深き川に身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

あはれ

信長

あはれに身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

遠き田舎の御中 西の御中

あはれに身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

あはれ

信長

あはれに身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

又水二年七月白河の七首

あはれ

あはれに身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

あはれ

信長

あはれに身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

あはれ

信長

あはれに身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

あはれ

あはれに身をまかせしはしづかぬ心ぞ
あはれ

文意元年十社百首 部卿

今教へし...の河東の柳系...
おほし
はら

...おほくおほく...
あま
あま

...の系くう...
あま
あま

任者社山百首 慈鎮 華茂

任者の喜...
あま
あま

文集...
あま

...の完れ...
あま

加茂社山百首

...の...
あま

酒河院山百首 中納言 國信

...の...
あま

...
あま

...の...
あま

家集...
あま

...の...
あま

...
あま

...の...
あま

千...
あま

...の系...
あま

あつたのわらびの木の柳さうくしてさうくさうくさうく

遠くへ平可首歌合は柳の御

柳の御さうくしてさうくさうくさうく

右中御具成る

さうくさうくさうくさうくさうくさうくさうく

後九条内大臣

さうくさうくさうくさうくさうくさうく

後九条内大臣

さうくさうくさうくさうくさうくさうく

えん元年の柳の御

さうくさうくさうくさうくさうくさうく

えん元年の柳の御

右中御具成る

さうくさうくさうくさうくさうくさうく

右中御具成る

さうくさうくさうくさうくさうくさうく

右中御具成る

さうくさうくさうくさうくさうくさうく

さうくさうくさうくさうくさうくさうく

右中御具成る

張子 張子

少人 少人

中田の池のほとり 万苗 に柳をうゑたるは なと 春の風

百首 御歌

明徳院 御歌

さう寝むあはれ柳 一平 けりぬれぬえよ 御歌 柳白浪

子首 御歌

殿 御歌

さうほろ池の境の柳 凡春中澤 けりぬれぬえよ 御歌 柳白浪

柳 御歌 けりぬれぬえよ 御歌 柳白浪

あう池のほとり 御歌 の柳をうゑたるは 御歌 春の風

百首 御歌

花 御歌

あう池のほとり 御歌 の柳をうゑたるは 御歌 春の風

百首 御歌

花 御歌

あう池のほとり 御歌 の柳をうゑたるは 御歌 春の風

百首 御歌

花 御歌

あう池のほとり 御歌 の柳をうゑたるは 御歌 春の風

百首 御歌

花 御歌

あう池のほとり 御歌 の柳をうゑたるは 御歌 春の風

百首 御歌

花 御歌

あう池のほとり 御歌 の柳をうゑたるは 御歌 春の風

百首 御歌

花 御歌

あう池のほとり 御歌 の柳をうゑたるは 御歌 春の風

百首 御歌

花 御歌

あう池のほとり 御歌 の柳をうゑたるは 御歌 春の風

百首 御歌

花 御歌

百首一首(歌)

寂蓮(寂蓮)

さらたにイ
まてこのくゆるのばあが戸とをたれらうるの事柳の糸

和縁二年百首

民(御)の内(御)

阿柳とくのを持よりけあてしとてたの程

遠き八年百首(歌) 伝美(御)

善柳の糸のりてとてさるれ本と云々の内いけ

ひ平判先(後)の事(後)の事

ゆるん面(村)の浅(思)も(あ)とに(内)う(は)ま(さ)く

柳の(つ)と(さ)う(り)と(さ)ら(い)よ(う)ゆる(ん)ふ(れ)ん(と)

さん(せん)か(と)ら(ん)お(勝)

善中柳

平泰(朝)臣(臣)

幸(く)ん(ら)の(際)の(を)る(人)の(柳)も(さ)ら(う)る(ま)の(ま)の(ま)の(ま)

大(大)軍(軍)師(師)侍(侍)お(お)の(の)境(境)柳(柳) 源(源)仲(仲)心(心)

あ(あ)ら(じ)と(さ)る(ま)の(は)あ(あ)ら(じ)と(さ)る(ま)の(は)あ(あ)ら(じ)と(さ)る(ま)

塩(塩)抄(抄)お(お)持(持)心(心)の(の)百(百)首(首)

あ(あ)り(そ)と(く)し(し)ぬ(ぬ)の(の)ま(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)

遠(遠)き(と)年(年)あ(あ)ら(じ)と(さ)る(ま)の(は)あ(あ)ら(じ)と(さ)る(ま)

く(く)ち(ち)や(や)ら(ら)ぬ(ぬ)ま(ま)の(の)ま(ま)の(ま)の(ま)の(ま)

河(河)柳(柳)

光(光)傍(傍)御(御)

あ(あ)ら(じ)と(さ)る(ま)の(は)あ(あ)ら(じ)と(さ)る(ま)の(は)あ(あ)ら(じ)と(さ)る(ま)

^{ちよ}あな御

^{やちま}

源仲心

甲斐の後の河人の人柳ありてらありうらうら

^藤貞徳三年百首保色柳 ^{奇御}氏名 ^御為家

から人のあしむのほ柳 ^{やちま}の吹く ^かの

^御為家 ^{百首} ^御恒二位 ^御為家

^ああけの ^た ^友花の ^ん

^福 ^御 ^御 ^御

^せ ^草 ^か ^て ^は ^吹

^歌 ^御 ^歌 ^御

^{やちま}

具説約長

^け ^わ

^御 ^御 ^御

^は ^風 ^の ^吹 ^く ^は ^吹

^御 ^御 ^御

^御 ^御 ^御

^御 ^御 ^御

^御 ^御 ^御

^御 ^御 ^御

^御 ^御 ^御

^御 ^御 ^御

うしろのまはうらうらなをみせうらうら海よるの
まは院入るるに記とあみする巻柳

松葉は原

しおのーた

うの海をいれし柳をみるるに海はうらうら海よるの

あまえん年百首

法印定春

几春中

吉野の海をみるるに柳をみるるに海はうらうら海よるの

あまえん

後頼朝

にたてれば 叢木

海柳をみるるに海はうらうら海よるの

はなをみるるに海はうらうら海よるの

うらうら海よるの

あまえん年百首

あまえん

うらうら海よるの

あまえん

うらうら海よるの

あまえん

うらうら海よるの

あまえん

あまえん

うらうら海よるの

あまえん

新古今卷上

此の書は...
 大須...
 中納...
 此の書は...
 大須...
 中納...
 此の書は...
 大須...
 中納...

此の書は...
 大須...
 中納...
 此の書は...
 大須...
 中納...
 此の書は...
 大須...
 中納...

今ところ新に入新素新わらわりの新あらまゝ
 由新河院新何新百首
 抱新怪新心新糸新緑
 又新信新年新一新め新社新百首
 日新煙新
 又新信新年新一新め新社新百首
 日新煙新

又新信新年新一新め新社新百首
 日新煙新
 又新信新年新一新め新社新百首
 日新煙新


~~~~~<sup>今</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>計</sup>~~~~~

又<sup>雁心</sup>~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>部</sup>~~~~~<sup>御</sup>~~~~~<sup>柳</sup>~~~~~<sup>打</sup>~~~~~

~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>部</sup>~~~~~<sup>御</sup>~~~~~<sup>柳</sup>~~~~~<sup>打</sup>~~~~~

~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>部</sup>~~~~~<sup>御</sup>~~~~~<sup>柳</sup>~~~~~<sup>打</sup>~~~~~

~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>部</sup>~~~~~<sup>御</sup>~~~~~<sup>柳</sup>~~~~~<sup>打</sup>~~~~~

~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>部</sup>~~~~~<sup>御</sup>~~~~~<sup>柳</sup>~~~~~<sup>打</sup>~~~~~

~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>部</sup>~~~~~<sup>御</sup>~~~~~<sup>柳</sup>~~~~~<sup>打</sup>~~~~~

~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>部</sup>~~~~~<sup>御</sup>~~~~~<sup>柳</sup>~~~~~<sup>打</sup>~~~~~

~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>下</sup>~~~~~<sup>元</sup>~~~~~

~~~~~<sup>前</sup>~~~~~<sup>部</sup>~~~~~<sup>御</sup>~~~~~<sup>柳</sup>~~~~~<sup>打</sup>~~~~~





酒に任保まふ

ふらふらみらぬのさしめしのあけのしら

又水二年毎百首中 御由歌

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

寛文二年海防百首目

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

信実の片

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

後入各因白

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

あつれいひのたうひさしとて海を渡るまふ

又亦二年毎百三<sup>着</sup>申 邸<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

はあ二年管根<sup>百</sup>首<sup>着</sup> 安<sup>部</sup>内<sup>御</sup> 卿

つらつらとまゝの御しすくれの<sup>老</sup>神あり

帖題律歌  
多作歌中平集  
中務丸

ふんふんふんふんふんふんふん  
貞應二年十月一首  
民部卿

あらふんふんふんふんふんふんふん  
富  
富  
富

建武二年十月一首  
くみ  
くみ

乃集一首  
花園左大臣  
池

あつと三月のあつと  
建保四年一首  
光厳寺  
入道

あつとあつとあつとあつとあつと  
又集一首  
中務丸

あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
御歌

あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
信吉の御歌

あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと



初年也  
 善目系(三行分上)

善目系(三行分上)  
 二字下  
 此久向平百首書目系

振後

二月  
 故木 万代

御  
 御  
 御  
 御  
 御  
 御

御  
 御  
 御

御  
 御  
 御  
 御  
 御  
 御

御  
 御  
 御  
 御  
 御  
 御

御  
 御

御  
 御  
 御  
 御  
 御  
 御

御  
 御  
 御

御  
 御  
 御  
 御  
 御  
 御

御  
 御  
 御  
 御  
 御  
 御

御  
 御

御  
 御  
 御  
 御  
 御  
 御

御  
 御  
 御  
 御  
 御  
 御

御  
 御

御  
 御  
 御



あまのよこひり <sup>光</sup> ~~こと~~ <sup>すけ</sup> ~~玉~~ <sup>に</sup> ~~あまの~~

<sup>三行かトル</sup> ~~三行かトル~~

<sup>三行かトル</sup> ~~三行かトル~~

後三行かトル

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~ <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~

あまのよこひり <sup>か</sup> ~~あまの~~







多物自作 廻り澤

後仲心

くまの... 澤 ...

常盤金ある中... 日

ま... 御 ...

力... 御 ...

か... 御 ...

又... 御 ...

後... 御 ...

花の... 御 ...

百... 御 ...

ま... 御 ...

可... 御 ...

ら... 御 ...

後... 御 ...

は... 御 ...

建... 御 ...

後... 御 ...

は... 御 ...

又... 御 ...

な... 御 ...





夫木和歌抄

あはれみの後の春まで残りつはめのあしにつけし  
いとすち

國書刊行會

燕め哀に見けるためし哉かはるちきりはな<sup>ら</sup>ひなる

世に <sup>あはれ</sup> <sup>かな</sup>

同元年百首 同

年をへてなれけむ宮のつはく<sup>ら</sup>め<sup>ら</sup>やみたえての

ちもいく春

文永九年毎日首中燕を

民部卿為家

二月のなかはに成としりかほにはやくもきけるつは

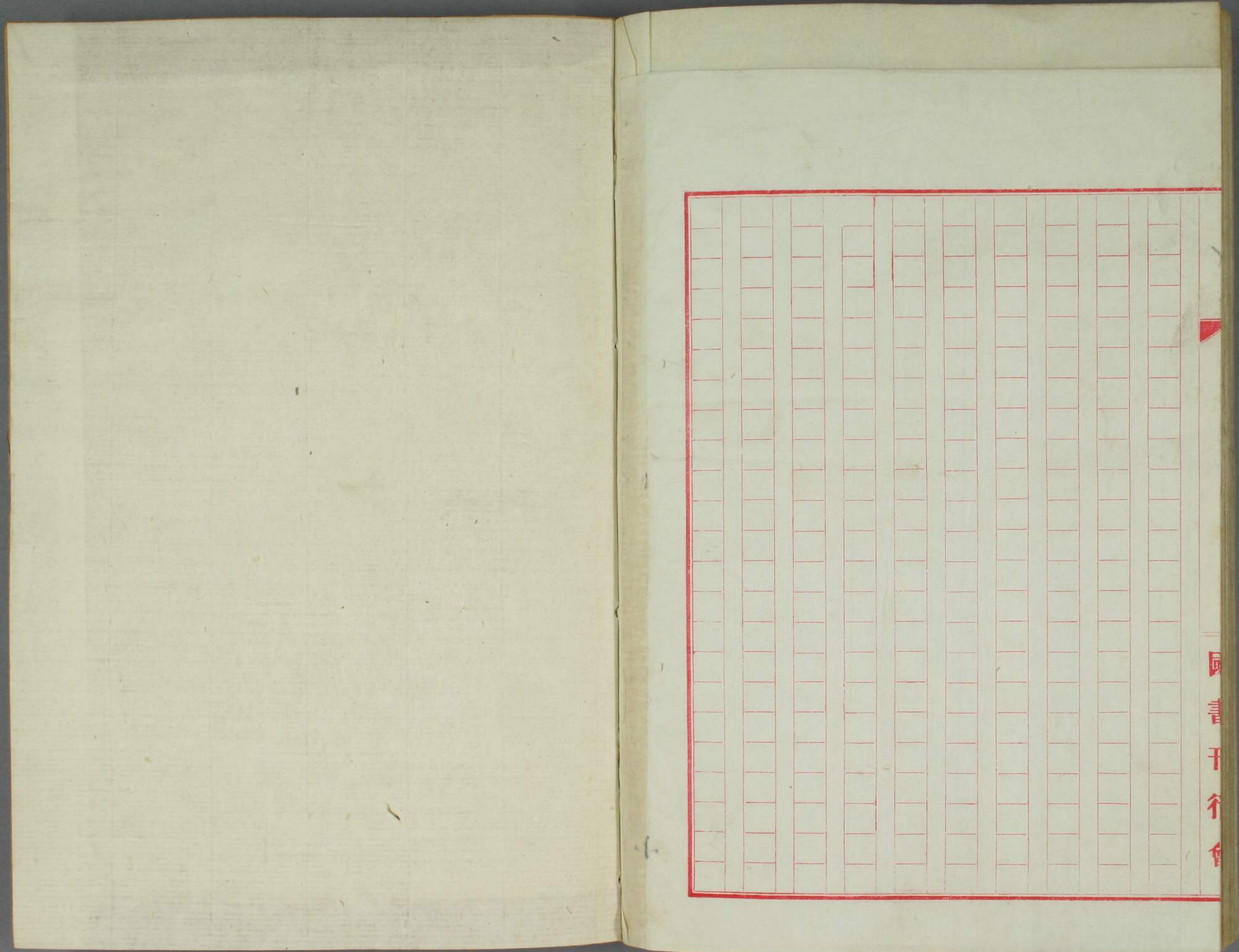
く<sup>ら</sup>め<sup>ら</sup>哉

鳥百首中燕

参議為相卿

小





國書刊行會

